

中央病院

概要

中央病院は、「世界最高の医療と研究を行う」、「患者目線で政策立案を行う」という新生国立がん研究センターの理念を達成するべく邁進しています。

新しい取り組みとして、患者さんのさまざまな合併症に対応してがん治療を支援する総合内科の創設、患者さんやご家族と対話を通して最良の医療について考えるがん相談対話外来の開設、創薬・個別化医療につながる基礎研究にご協力いただける患者さんを支援するリサーチ・コンシェルジェの整備などが始まりました。また、組織全体で目的意識を共有し、効率的な意思決定を行うために、診療科長制の導入、診療・研究・安全・財務・教育の分野をそれぞれ担当する複数副院長制の導入、委員会再編成などの組織改革を行いました。

All Activities for Cancer Patients(職員の全ての活動はがん患者の為に)という言葉に胸に、全職員一丸となってさらなる向上を目指しています。



トピックス

■総合内科の創設

内科慢性疾患を抱えるがん患者の方々にも、最善のがん医療を提供できる体制を新たに整備しました。糖尿病や心疾患などの合併症を持つがん患者の方々を「がん難民」にはいたしません。

■がん相談対話外来の創設

中央病院のがん相談対話外来では、医師と看護師が、がん患者の方々やその家族とともに対話しながら、がんの悩みについて答えていきます。必要に応じて、がん専門相談員が同席したり、精神腫瘍医に紹介をします。

■ホウ素中性子捕捉療法(BNCT)

放射線治療・診断などの臨床経験と、研究・開発基盤をもとに、私たちは悪性脳腫瘍、頭頸部がん、悪性黒色腫、血管肉腫などの難治性腫瘍への治療をめざして、世界初の病院設置型加速器によるホウ素中性子捕捉療法に向けた研究を進めています。

■がんワクチン

次世代のがんに対する免疫療法や細胞療法を開発するために、私たちは有望な基礎研究を探索し続け、短期間で臨床応用するためのシステムを提案するとともに、がんワクチンの臨床試験などの先進的な医療を行っています。

■悪性脳腫瘍の覚醒下手術

患者さんの脳の機能を温存するために、電気刺激によるモニタリングや言語テストや会話をしながら、麻酔を切って覚醒下で悪性腫瘍を摘出します。

